

2015年6月5日掲載

「ホウレンソウ」

先日、札幌市内でホウレンソウ徹底セミナーの講師を務めた。社会人になると教わるのが、報告・連絡・相談のいわゆる「ホウレンソウ」である。組織内ではチームで仕事をするため、報告、連絡、相談によって相手の不安を解消し、リスクも発見できる。

就職活動が本格化する中、私は最近、学生のエントリーシート添削や模擬面接を行っている。中には残念ながら、予約したにも関わらず無断欠席や遅刻をする学生もいる。何かあったのではないかと不安になるので、後からでも報告してほしいと思っている。学生時代から身につけて欲しいスキルのひとつである。

さて、「ホウレンソウ」は一般的には部下から上司にするものと思われがちだが、機能させるには「双方向のコミュニケーション」を取る必要がある。上司と部下が対等な立場で報告、連絡、相談し、課題が出てきたら一緒に考えて解決していくことが大切である。すると部下は聞いてもらっている安心感を得て新たな観点に気づき、自主的にホウレンソウを行うようになる。一方、何の反応もなければ不安になり、やる気も失う。

ホウレンソウは「しなければならないもの」ではなく、部下は上司がどんな意図で報告や連絡を指示や命令をしているのかを理解する。上司も、経験が豊富だからこそ見える課題を部下に相談し、考えさせ、行動させる。それがチーム力向上にもつながる。

双方向のコミュニケーションが、組織をさらに活性化させることを期待している。

(毎日新聞より)